

# 月曜放談

作家 戸田中央  
氏 堀野吟子

日本は女性の活躍が遅れた国だと言われている。世界経済フォーラムという機関が発表している「ジェンダー・ギャップ指数」ランキングでは、日本は146カ国中116位。経済に似合わない相当の後進国である。身の回りには、大活躍している論客、実業家の女性が多々おられるし、家でもやりこめられてばかりなので、それ程ではないのでは、と思つことも…。

しかし管理職の女性比率、国会議員の女性比率、勤労所得の男女差…等々、統計を基につぶさにみていけば、確かに見劣りしている。結果は真

学生は夏休みを利用して、北海道や九州等遠隔地を選んで21日間周遊を楽しんだものだった。私も多聞に漏れず、珍しい所といつことで、函館、江差、奥尻島、瀬棚、今金、国たか、と。

奥尻島で腹一杯ウニを食べたあと、瀬棚に向かったが、そこは寂しい漁村だった。そ

私、20才の頃、といつと60年近くも前になるが、当時の

積極的に取り組み始めている。私が20才の頃、といつと60年近くも前になるが、当時の

## 荻野吟子の功績長く記憶に



こから国鉄瀬棚線(現在は廃線)の駅に乗り移る際、窓外に荻野吟子の顕彰碑をチラッと認めた。日本女医第一号がこんなひなびた土地から出たのか、と

が校訂した「令義解」。井上博士と共に古文書に向きあい、「律令時代には女性の医師がいたではないか」と主張できたこと。当時の社会情勢下、何という知識であり機知・機転であろう。荻野吟子と堀保己一、ともに埼玉に生まれ、ともにハンディキャップを背負った2人が、時代を超えて繋がっているのも感動ものである。今後、真の意味で女性活躍の世界を作り出すためには、勿論、それを可能とする環境整備を進める必要があるが、それと共に、荻野吟子のような積極的な立ち向かう女性から次に現れ、牽引していくことも求められる。女性には男性と異なる素晴らしさがある。次回は彩の国さいたま芸術劇場芸術監督の近藤良平氏で

## 岡本 冨衛

埼玉県人会会長  
日本生命保険相談役

恵まれない女性を救おうと決意する。しかし、当時は女性活躍の力ケラもない。女性には医療開業試験の受験すら認められていなかった。その後、様々な努力・陳情の甲斐あって受験が認められ、日本初の女性医師となるが、陳情の際に役立ったのが、なんと堀保己一

おかもと・くにえ 鴻巣市出身、県立浦和高校―東大法学部卒。1969年日本生命保険に入社。2005年社長、11年会長。現在は同社相談役。18年に埼玉県人会の第12代会長に就任。経済同友会の副代表幹事、経団連の副会長も務めた。78歳。